

給食で食を考えましょう!!

1月24日から1月30日までは「全国学校給食週間」です！

学校給食は、明治22年山形県鶴岡町の私立忠愛小学校で、お弁当を持参できない子どもたちのために、おにぎり・塩鮭・つけるものなどを提供したことが始まりとされています。その後、全国に広がりましたが、戦争のために中断されました。

戦後、食糧難により児童の栄養状態が悪化し、学校給食再開を求める国民の声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA(Licensed Agencies for Relief in Asia: アジア救済公認団体)から給食用物資の寄贈があり、学校給食が再開されました。昭和21年12月24日に東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われました。

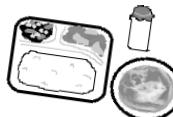
そして、感謝の気持ちを込めて、12月24日が「学校給食感謝の日」と定められました。昭和25年、こうした支援に対する感謝の意を表すとともに、学校給食が戦後再び始まった意義を考えるために、冬季休業と重ならない1月24日～1月30日の1週間が「全国学校給食週間」とされました。

この機会に、学校給食の意義・役割や、食べ物の大切さについて考えてみましょう。

学校給食の意義・役割

学校給食は、成長期にある中学生に必要な1日の食事摂取基準の3分の1を満たすことができるよう考えられており、主食(ご飯・パン)、主菜、副菜、汁物などに牛乳を組み合わせて提供されます。

また、学校給食は、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。



感謝して食べましょう

みなさんが毎日食べている食事には、食べ物をとったり、育てたり、加工したりする人など、多くの人たちが関わっています。

また、生き物の『いのち』をいただいて、自分の『いのち』を養っています。いつも感謝の気持ちを持って、残さず食べるようにしましょう。



感謝の気持ちを込めて
「いただきます」「ごちそうさま」

★「手洗いクイズ」の答え★
①～③すべて